

NEWS LETTER 2024

5TH ANNIVERSARY

話を聞く



一緒に乗り越える



暮らしを支える



支援の輪をつなぐ



子どものための “ワンストップセンター”を 日本全国に!



代表理事より

社会は変えることができる



代表理事 田上幸治
神奈川県立こども医療センター医師

10年ほど前、病院内で将来的にCACの設立を目指そうと訴えましたが、周囲からは「性虐待は児童相談所の仕事だろう、病院は関係ない」と叱責されました。しかし、この10年間で状況は変化しています。被害者(子ども)の心身の回復は困難であること、MeToo運動やジャニーズ性加害問題など被害者の勇気ある行動がたくさんの人の心を揺さぶっています。社会は変わってきている。社会は変えることができる。そう思っています。

これまで医者として「もっと自分に力があれば」と悔しい思いをしたことがたくさんありました。自分の非力を後悔しても仕方がないですが、今はいくらかの経験や知識を蓄え、いくらかの研究費や貴重な寄付金を頂くことができています。今こそ自分の全力を尽くさないといけないと思っています。そうでないと「もっと自分に力があれば」と悔しい思いをした過去の自分に嘘をつくことになると思うからです。そして、その努力は医療や支援者、司法、NPOのためでなく、子どもたちのために尽くされるべきだと思います。我々はどんな子どもも、その後の人生が幸せなものになるよう、当たり前を送れるようにしていかなければいけません。

これからも子どもたちのために尽力していきたいと思っています。

出典:「FIT チャリティ・ラン」での取材コメントより

http://fitforcharity.org/ja/previous-runs/2023/2023_charity_interview_Tsunagg.html

虐待や性被害などを受けた子どもは、支援につながるために、自らさまざまな場所へ出向かなければなりません。それは心にも体にも大きな負担となります。

つなぐは「子どものためのワンストップセンター(CAC: Children's Advocacy Center)」として、多機関多職種(MDT:Multidisciplinary Team)で連携し、初期から中長期にわたり、必要な支援が届くようにつないでいきます。

様々な機関と連携しながら、子どもの権利を守り、心身の回復を目的に「子ども支援センターつなぐ」は活動しています。

私たちの目指すゴールは…

私たちの目標は、全国、どこの子どもたちでも、被害にあった時に、すぐに1つの場所に行けば支援を得ることができることです。子どもから何らかの被害の訴えを聞いた専門職の人も、そこに子どもを連れて行けば良いのです。子どもたちに何が起きているのかを、悩むより前に、即座に、皆で集まって、専門的視点で、何があったのかを確認し、証拠を確保します。知恵を出し合って方向性を決めたら、それぞれの専門家が動く。例えば、警察は捜査を、児童相談所は保護と調査を、医療機関は治療や心のケアを、学校は日中の子どもの居場所の確保を…。同じ情報に基づき、それぞれが専門性を活かして対応していく。そういったシステムができれば良いと思っています。まず、初めに、子どもにとって心地よい場所で、子どもと話すことに慣れた専門の面接者や医療者が、子どもから得られる情報を収集して記録するのが、子どものためのワンストップセンターの役割です。

アメリカのチャイルドアドボカシーセンター（子ども権利擁護センター）、これが私たちが描いている未来です。子どもたち専門の建物で、緑があって、フレンドリー。そして、専門家たちが集まる。ここでは、児童相談所も警察も、担当の人が決まっていて、通報が入ると来てくれます。子どもたちが司法面接や系統的全身診察を受けるのを見守ってくれて、その直後、その場で、対応を始めてくれる。そんな形はまだ日本にはないと思っています。まずは、この神奈川から始めたいのです。これが日本全体に広がればいいな、と願っています。そういったことを皆でやっていって、全国の子どもたちを支える人や、なんとか子どもたちのために頑張ろうと思っている方たちの一助となれば、そして、子どもたちが成長していくときの、手助けになればと、切に思っています。



代表理事 飛田 桂
飛田桂法律事務所 弁護士



ワンストップセンター(CAC)って？

つながぐでは日本の法制度や社会的構造に則した、「日本版子どものためのワンストップセンター」を構築し、日本各地に子どものためのワンストップセンターが設立されることを目指しています。諸外国では、性被害への対応として、一つの場所に行けば、全てのサービスを受けられるよう、幅広い機関がワンストップで連携を取っています。それらはCAC (Children's Advocacy Center) と呼ばれ、アメリカでは900か所以上あります。

日本では、そういう視点でのセンターは、つながぐを含めて、全国で2か所です。

医療・福祉・司法などの多機関多職種の専門家がチームとなって、被害を受けた子どもが調査・捜査のための面接(司法面接)、**系統的全身診察**、**心のケア**などさまざまな支援をワンストップで対応しています。またその後も、行政や教育機関、支援者など、さまざまな機関・職種で連携しながら、子ども一人ひとりが必要とする支援につないでいきます。



ワンストップセンターとしての取り組み

被害を受けた子どもが自立し、自分自身を大切に
した暮らしができるようになるまで、初期対応から
中長期にわたり、手を放すことなく、多機関多職種
の人たちと一緒に伴走します。

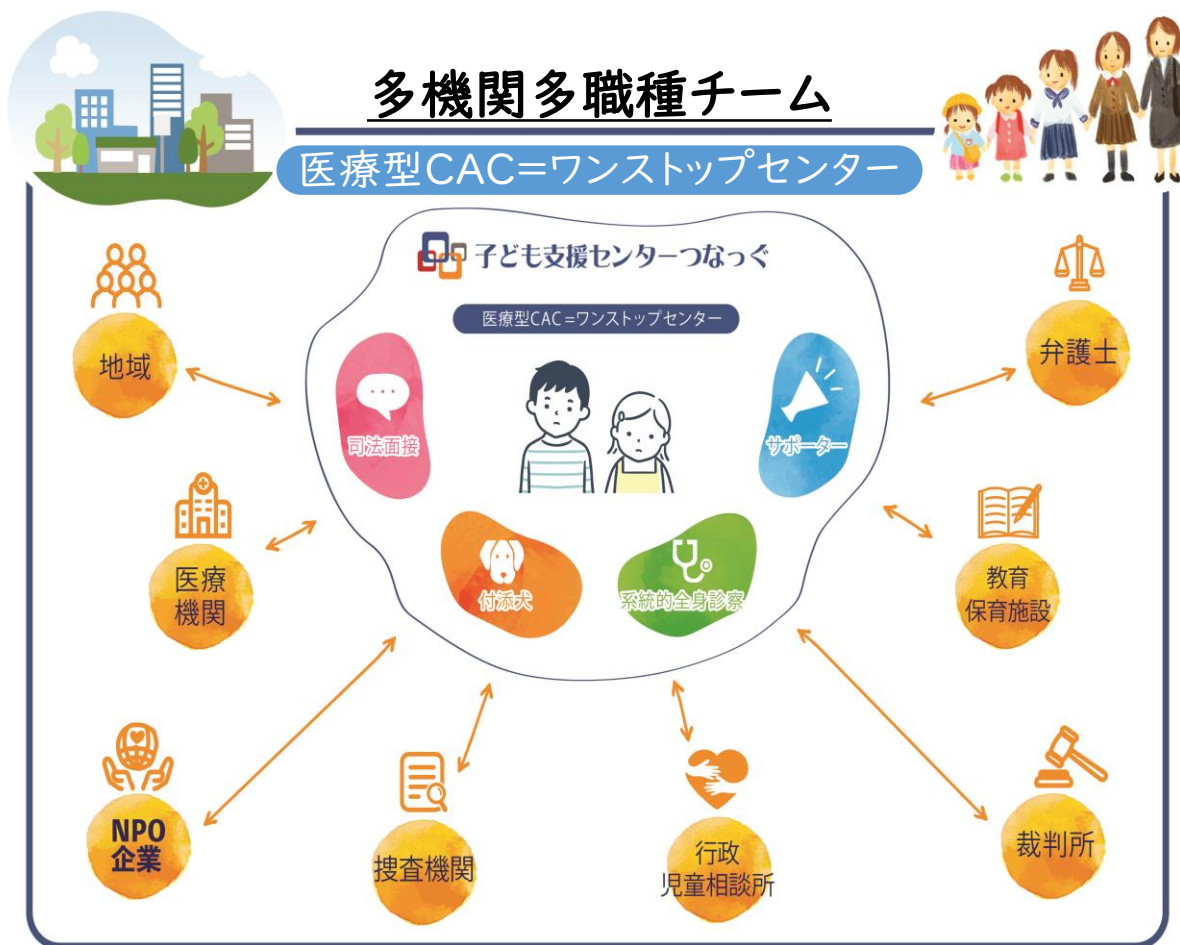
つながぐが提供する4つのこと

話を聞く

一緒に乗り越える
(付添犬)

暮らしを支える

支援の輪をつなぐ



2024年4月 おかげ様でつなぐは5周年を迎えました！

2024年5月25日（土）に、子ども支援センターつなぐ設立5周年・付添犬認証委員会10周年記念の「市民講座」を行いました。基調講演のほか、付添犬に関するシンポジウムやつなぐのこれからについての講演を行いました。



つなぐの5年間の軌跡早見表

- 2019年
 - 「NPO法人神奈川子ども支援センターつなぐ」が設立
 - 子どもの虐待に関する市民公開講座やCACの勉強会、コートハウズドッグ勉強会を開催
- 2020年
 - 性的暴力のトラウマケアや、刑法改正について市民公開講座開催
- 2021年
 - 事業の普及に伴い、団体名称を「NPO法人子ども支援センターつなぐ」に変更
 - トラウマインフォームドケアや、大人ができることについて市民公開講座開催
- 2022年
 - 加害者心理や性被害の予防について市民公開講座開催
 - 高校生と「大学生が一時的にでも生活保護が受給できないこと」の啓発活動
 - 特例認定NPO法人に認定される
 - 国会で付添犬に関する答弁
- 2023年
 - 解離や多機関多職種連携について市民公開講座開催
 - 子どもの権利擁護シンポジウム2023開催
- 2024年
 - つなぐ司法面接研修開始
 - 認定NPO法人に認定される
 - 司法面接構造/子どもの性被害に対する実態調査を公開

定期的に学会でも
研究成果を発表！

子ども支援センターつなぐ設立5周年 付添犬認証委員会10周年記念 「市民講座」

おかげさまで、2024年4月につなぐは設立5周年をむかえました。

多くの皆さまのご支援に感謝いたします。

5月25日に三部構成で実施した「市民講座」でお話いただいた皆様のコメントの一部をご紹介します。動画で視聴いただけますので、動画もぜひご確認ください。

～内容～

・第1部 基調講演

こどもまんなか「こども家庭庁とその取組み」について
初代こども家庭庁担当大臣 衆議院議員 小倉将信様

・第2部 シンポジウム

付添犬で子どもの「話をする」をサポートする
衆議院議員 牧島かれん様 / 滝川クリステル様 / つなぐ
モデレーター 日経BP総合研究所・フェロー 桔梗原富夫様

・第3部 活動説明

未来に向けて…つなぐのこれから
認定NPO法人子ども支援センターつなぐ
代表理事 飛田 桂

・閉会挨拶

神奈川県議会議員 敷田博昭様



第1部 基調講演



初代こども家庭庁担当大臣 小倉将信 様

こども家庭庁のこどもまんなか社会について、発足の目的や職員の方々の思いなども伝えていただきました。「子どもや若者の意見を真摯に聞くことを一番大事にしたい」「いまの子どもや若い人たちが元気じゃない、夢を持ってくれない、そんな話があるけど、若い人たちの責任でしょうか。思っていること、考えていること、行動したいと思っていること、それを社会として国として行政としてしっかり応援してこれなかったからこそ子どもに成功体験が与えられず、だから、大人になっても若者たちも自分たちが行動すれば社会が変わる、国が変わる、と確信が持てないのではないか」とおっしゃられていたのが、印象的でした。



基調講演、シンポジウム等、市民講座の内容は動画で視聴いただけます。



第2部 シンポジウム

日経コンピュータ等の元編集長で、IT・デジタル分野を専門に豊富な経験と知見をお持ちです。今回のシンポジウムでは、いつもと違う分野のモデレーターをつとめていただき、コメンテーターの皆さまから以下のようなお話しを引き出してもらい、アツという間の1時間でした。

- ・子どもを取り巻く状況
- ・付添犬の意義
- ・付添犬のサポートを受けた子どもからの声
- ・付添犬活動の課題、今後の発展について
- ・子どものためのワンストップセンター(日本版CAC)の意義



モデレーター 日経BP 総合研究所・フェロー 桔梗原富夫 様



衆議院議員 牧島かれん 様



滝川クリステル 様



当法人理事・付添犬認証委員会事務局長 山本真理子

閉会の言葉は、つなぐの設立以来、その活動を見守り、支援いただいている敷田様よりいただきました。「なかなかゴールの見えないことではありますが、心ある皆様と一緒に力を合わせて、国、県、市一丸となって政治の使命、役割、責任を果たし、子どもたちの明るい未来のために進んでいきましょう…」

2022年の8月に付添犬キースとアンジェロと表敬訪問に伺わせていただいて以来、国会の中でも委員会で質疑などを通して、付添犬について発信してくださるなど、つなぐの活動を応援してくださっています。

「CACに関していうと、アメリカでは系統的全身診察、司法面接と心のケアという3本柱で行っているのがわかりました。日本の高い水準で心の不調があった時に相談しても良い、心が傷ついたとき誰かに打ち明けて良いのだという社会にしていけないと…」

人間と動物の命が共存・共生し、調和する社会の実現を目指して活動されている一般財団法人クリステル・ヴィ・アンサンブル代表理事を務めておられ、ご自身がお子様の子育てと保護犬の介護を同時に行いながら、1人の母親として、飼い主として、参加してくださいました。

「セラピー犬がどんどん広まってほしいと思います。私の財団でも読書犬という活動を2022年から始めています。これは子どもたちがワンちゃんに対して読み聞かせをするもので…」

動物人間関係学や介在動物学を専門にしており、帝京科学大学の講師を務めています。付添犬の普及・啓発を研究の側面から支えています。

「付添犬は被害を受けた子どもが自分が受けた出来事を他者、司法関係者や医療従事者に安心して伝えられるようにサポートする犬です。話をするということが二次体験にならないように心理的なサポートをします。その効果は…」



神奈川県議会議員 敷田博昭 様

JAHA所属
アンジェロ



話を聞く

司法面接で子どもから話を聞く

虐待や暴力などの被害を受けた子どもは、自分に起こった被害について、医療機関、児童相談所、警察、学校、弁護士など支援につながるために何度も話さなくてはなりません。

「辛い話を何度もする」ということは、何度も辛い体験を思い出すことになり、それが二次被害、三次被害を

生むと言われています。

つながぐは、子どもからできるだけ正確に、誘導なく、負担なく話を聞くために『司法面接』を実施しています。

また司法面接のあと、必要に応じて頭から足先まで全身を診察する『系統的全身診察』を行なっています。

＼司法面接の実施／

つながぐに依頼をいただいたり、自治体からの委託を受けて、司法面接を行いました。

また、実施した面接のレビューや海外の文献の勉強会を通じて、面接者としてのスキルの向上にも取り組んでいます。

ガイドライン・「司法面接構造」については、P.11をご覧ください！

＼子どもが被害を話したら…／

子どもが被害を話したときは、詳細をあれこれ聞きすぎず、すぐに適切な機関につなげることが重要です。



被害開示があったときの対応とその後の支援の流れをまとめた動画を制作・公開しました。教職員始め、子どもに関わる仕事をされている方々、ぜひご覧ください。

7



どうして必要？系統的全身診察

子どもの話を聞くことと併せて、系統的全身診察も子どもの福祉という点において、虐待対応の一環です。

頭からつま先まで全身のパーツを一つ一つ丁寧に、子どもに問診をしながら診察することによって、他の種別の虐待が合併していないかの評価ができます。また、子どもの心理状態に十分に配慮した問診と診察によって、性器・肛門などのプライベート・パーツを診察される子どもの羞恥心や不安を低減し、診察による二次被害を防ぐことができます。

今までの成果(2024年11月時点)

■司法面接実施回数 28回

■系統的全身診察実施回数 3回

一緒に乗り越える（付添犬）

子どもが被害について話すサポートをする

被害発覚直後の聞き取りが終わった後も、裁判が進む中で子どもは何度も被害について語ることを求められることがあります。

時には裁判所で証言をする必要があり、不安な戸惑いなど、子どもの心に大きな負担となっています。

そのようなとき、少しでも子どもが安心して話したいこ

とを話せるように、話したくないことを話さないでいられるための支援をしています。

「一緒に乗り越える」ために、つながりの活動にはとても大事なパートナー「付添犬」がいます。

話す前の苦しみも、話した後の苦しみも、そのあとの人生への影響を一緒に乗り越えるサポートを付添犬とともに様々な手段で行います。

＼NHKで紹介されました／

7/19(金)18:10~19:00放送の
「NHK首都圏ネットワーク」で、
付添犬の常駐化に向けた取り組み

について紹介されました。

詳しくはこちらから！



＼付添犬紹介動画／

活動をより知っていただくため、紹介動画を公開中！付添犬の効果や、ハンドラーさんからのコメントなどをまとめています。ぜひご覧ください。



イケア様から150体もの寄贈が！

付添犬活動で犬と触れ合った子どもたちにイケア様から寄贈いただいた犬のぬいぐるみをお渡ししています。

ぬいぐるみを抱きしめて「大事にします」と満面の笑みで言ってくれたり、「ぬいぐるみをいただいてから子どもが夜ぐっすり眠れるようになりました」と後日連絡をいただいたり、ぬいぐるみは面接後も大活躍。

今年度は、犬のぬいぐるみ以外にも、パンダやサメ、シロクマなどのぬいぐるみも含め、150体のぬいぐるみをいただき伴走支援にも活用しています！



JSDA所属
キース



今までの成果(2024年11月時点)

■付添犬派遣回数 181回

■裁判への付添犬同席件数 5件

暮らしを支える

子どもたちが”自分自身を大切”に暮らし、こころをケアする

子どもが被害を受ける環境を離れ、安定した衣食住を得られる環境になっても、つながりの支援が終わるわけではありません。むしろ、そこからの人生のほうが長いのです。

子どもが、被害から回復し、「自分自身を大切にする生活」を一日でも早く送れるようになるために、どんな小さなことでも、一人ひとりの状況に応じて、オーダーメイドのサポートをしています。

＼衣食住の支援／

つながぐでは、ひとりひとりの子どもの希望を聞いて支援を行います。たくさんの諦めたり失ったりした経験から、なかなかお願いができない子どもが、「どんなものが欲しいか」伝えることを繰り返すことで、「自分の希望を伝える」という経験ができるようになるのです。

＼同行支援／

生活のために必要な役所での手続きや、進学のため奨学金の手続きをしたり、病院にいったりの支援も行っています。ボランティアさんと一緒に、楽しい思い出のある場所にいったり、食事をしておしゃべりしたり・・・そういった、穏やかな時間を共に過ごすことが、こころを支えることにつながるのです。

9



PICK
UP

ボランティアOさんからの一言

普段は、行政で児童虐待ケースワーカーの仕事をしています。児童が対象なので、支援できるのは18歳手前まで。関わってきた子どもたちが、その後どのように生きていくのか、その先の支援はあるのか、ずっと気になっていました。そんな折、被虐待を受けた女性が自活するにあたり、見守りボランティアをお願いできないかとつながぐさんから依頼され、すぐにお請けしました。具体的にはバイト先の緊急連絡先になったり、LINEで近況を確認したり、生活の豆知識を伝授したり、急病時に駆け付けたり、定期的にご飯を食べながら今後の相談をしたり、つながぐのスタッフさんと連携しながらの支援です。

心掛けているのは適度な距離感。

いつでも安心して彼女がSOSを出せる存在でありたいと思っています。



JAHA所属
メグ

今までの成果(2024年11月時点)

■ 支援申込件数 145件

■ 支援をしたのべ人数 100人以上

支援の輪をつなぐ

大人が子どもをサポートできる体制を整える

子どもに必要な支援を正しく届けるためには、さまざまな場面で子どもに関わる大人が、正しい知識を持つことが必要だと考えています。子どもを支える大人が、正しく学び・つながるサポートをしています。

つながぐでは子どもの支援に関わる専門家などをお招きし、定期的に研修や講演会を行っています。

また研究やネットワーク構築、政策提言にも取り組み、支援の輪をつないでいます



柔軟な司法面接手法を学びたい方
面接スキルを自分のモノにしたい方

つながぐ司法面接研修

2024年

＼今年から開始！／

子どもに負担の少ない聞き取りを行う
司法面接の背景や会話の特徴、
多機関多職種で連携する必要性などを
学んだ上で、多くの演習を行い、
面接のスキルアップに繋がります。



子どもを社会、地域で守るため、
まずは知ることが大事！

MDT(多機関多職種連携)研修



子どもから最初に被害報告を
受けた時の対応を学ぶ

子どもの話を聞く研修



子どもへの適切なサポートを学ぶ

つながぐ子ども・若者サポート
ボランティア養成講座(愛称:つなサポ)

PICK
UP

研修以外でも、広がる支援の輪

＼支援者交流会／

毎年、子ども・若者を支援する団体で集まり、交流会を行っています。各団体の活動紹介や、日々の活動の中で感じること・悩みなどを共有したり、団体同士が
つながる機会を設けています！

＼学会参加／

司法面接や付添犬などの事業を安全に中立的に進めるために、多職種の人たちで集まり研究を進めています。研究の成果については、日本子ども虐待防止学会(JaSPCAN)などの学術集会で発表をしています。

2025年度研修の詳細はこちら



JSDA所属
パル

今までの成果(2024年11月時点)

■のべ受講者数 1,363人

■研修・講演会実施数 34回

TOPICS

PICK
UP

各種メディアにとりあげていただきました！

□ ABEMA NEWS

6月19日(水)22:00から配信されたABEMA Newsで、性被害の実状やCACなどの紹介があり、その中でつながぐの活動が紹介されました。

□ NHK 首都圏ネットワーク

7月19日(金)18:10~19:00放送の「NHK首都圏ネットワーク」で、付添犬の常駐化に向けた取り組みについて紹介されました。

□ 電子版などでの掲載

西日本新聞や現代性教育研究ジャーナルなどにも掲載いただきました。

PICK
UP

日本版司法面接プロトコルとして「司法面接構造」を公開しました！

つながぐは、アメリカのNational Children's Advocacy Center (NCAC) のコンサルテーションのもと、日本版司法面接ガイドライン・プロトコルの研究・開発(新司法面接プロジェクト)を行い、昨年11月には、日本版司法面接ガイドライン、そして今年3月には新たに、司法面接の手順を示した日本版司法面接プロトコルである、「司法面接構造」を公開しました。

右記のQRコードからガイドライン・司法面接構造を掲載した「司法面接実施の手引き」冊子の購入ができます。
ぜひご覧ください！



PICK
UP

「子どもの性被害への対応に関する実態調査」を公開しました！

「子どもの性被害への対応に関する実態調査」を実施し、よりよい社会システム構築のために報告書を作成しました。その啓発活動を、インターン生中心に行っております。詳細は、右記のQRコードから「実態調査報告書」をご覧ください。



PICK
UP

創立5周年のバースデードネーションを実施いたしました！

「子どものためのワンストップセンター」の普及を目指し、さらに活動を広げるため“バースデードネーション=お誕生日クラウドファンディング”キャンペーンを実施いたしました。

ご支援、拡散してくださった皆様、ありがとうございました！

これまでの活動の軌跡やつながぐのこれからについてまとめた動画を制作しました。また、つながぐ学生インターンが中心となり、つながぐに関わる方々からコメントをいただき動画にまとめました。
右記のQRコードからご覧いただけます。



つなぐを支える仲間たち



インターン生

5名のインターンたちが、広報・啓発活動等に取り組んでいます。

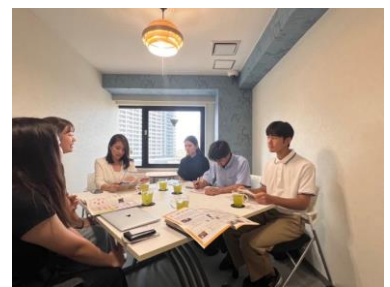
かながわボランティアフェスタ2024

ポスターや動画の制作の過程で、支援者さんや事務局スタッフの方々にインタビューを行いました。つなぐへの熱い思いや、やりがい聞くことができました！



神奈川県議会永田議員事務所 インターン生交流会

それぞれの場所で同じような想いを抱いている同世代がいる。この心強い存在を忘れず、想いを絶やすことなく活動に邁進していきたいです。



公明党横浜市会政策懇談会

議員の方々に、つなぐの事業を知っていただけたこと、また政策的に関心を持っていただいたことが、「全国にワンストップセンターを」という目標に一步近づいた場面だと感じました。



付添犬ハンドラー

提携する2団体の公益社団法人 日本動物病院協会 (JAHA) と社会福祉法人日本介助犬協会 (JSDA) から、それぞれの専門団体で認定を受けた犬とハンドラーが、さらに付添犬認証委員会の認証を受けて、内容やニーズに合わせて活躍しています。



JAHA

三宮 裕子さん

最初は、犬を裁判所に入れる事が出来るのだろうかと思いつつ始まったフ란との活動ですが、被害にあったお子さんだけでなく、裁判に関わる周りの大人たちにも大きな役割を果たしたと思います。全国に付添犬が活躍できるよう増えてくれたら良いなと思っています。



JSDA

桑原 亜矢子さん

付添犬の存在が、お子さんの緊張を少しでもほぐし笑顔を引き出す場面を見た時、必要とするお子さんがいる限り、その横に寄り添う付添犬を安定的に派遣できるような体制を作らなくてはと思いました。



司法修習生

76期司法修習生

平良 悠里さん

児童福祉の分野に興味があり、勉強させていただきました。新司法面接構造の開発や付添犬活動など素晴らしい活動をしていることに感銘を受けました。夢は、傷ついた子どもたちに寄り添う司法面接のできる弁護士になることです。

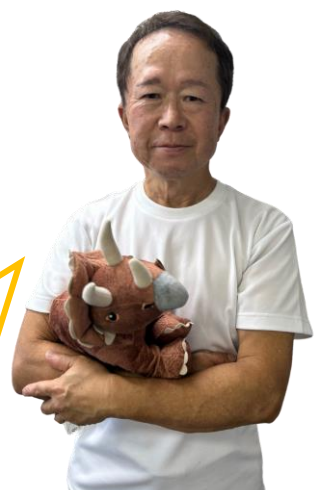


ボランティア

事務局ボランティア

山本 敏雄さん

虐待被害の報道が絶えない事に心を痛め、児童に関わる資格や職業経験は無いが少しでも子供達の力になりたいと2年前につなぐの活動に参加し、子ども医療センター内の面接室施工DIY、研修や事務局のお手伝いをしています。





ご支援のお願い

皆様のご支援に支えられています

つながぐの活動は、各種助成金や企業や個人の皆さまからの一般寄付、クラウドファンディング等に支えられています。

ご寄付いただきました団体、企業、個人の皆様に感謝いたします。

引き続きご支援の程、よろしくお願いいたします。



公益財団法人日本財団



赤い羽根
福祉基金

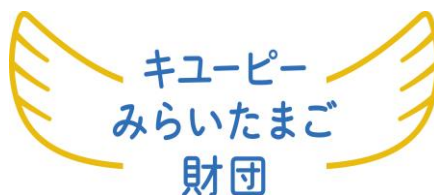
社会福祉法人中央共同募金会



首都圏若者サポートネットワーク



国際ソロプチミスト
国際ソロプチミスト奈良



横浜マラソン組織委員会

賛助会員、マンスリーサポーターの皆様

創立5周年記念

「市民講座」の開催に際し各種ご支援いただいた皆様

- シンポジウム・付添犬：メグ(公益社団法人 日本動物病院協会),キース(社会福祉法人日本介助犬協会)
- シンポジウム・モデレーター：日経BP 総合研究所 フェロー 桔梗原 富夫 様
- 動画作成支援：原田 浩章 様
- 市民講座 司会進行：声優、ナレーター 渡辺 克己 様
- 実施支援：社会福祉法人テレビ朝日福祉文化事業団
- 会 場：伊藤研修センター
- 記録動画撮影：有限会社ディレクターズ東京
- 運営支援：つながぐインターン、つながぐボランティア

つながぐ
お誕生日クラウド
ファンディング
支援の皆様

59名



代表理事(田上)からの 一言

社会にはパワハラもあれば、セクハラもある。大人は会社を辞めたり、愚痴を言ったりできるかもしれない。でも、子どもは異なる。自ら家を飛び出し、被害を訴えることは難しい。

身体的な虐待ではあざが他者から見つけられるかもしれないが、性虐待では症状が出にくく、見つけられない。自らの訴えがなければ、虐待は続き、心も体も傷ついたままとなる。助けが必要です。子どもに優しい環境が必要です。話を聞いてあげること、体を診てあげること、そして、心のケアなどが必要です。皆さまの多くの助けが必要です。



寄附のお願い

みなさまからのご寄附が子どもの今を、そして未来を支えます

つながぐの活動は、皆さまからのご支援によって支えられています。
寄附いただいたご支援は、子どもを守るワンストップサポート事業にかかる費用や、児童虐待に関する研究にかかる費用、事務局運営資金にかかる費用に充てさせていただきます。



2024年3月27日付でつながぐは横浜市から『認定NPO法人』として認定されました。
つながぐにご寄附をくださった方は、寄附金控除などの税制上の優遇措置が受けられます。
詳しくは、右上のQRコードでホームページをご確認ください。

月々1,000円で…

(年間12,000円)

- ・子どもたちに食料品を送ることができる
- ・ボランティアさんと一緒に外出し、食事をしながら、近況について話したり相談ができる



月々3,000円で…

(年間36,000円)

- ・付添犬を派遣し、子どもに寄り添う
- ・大学などの受験費用を助成



月々5,000円で…

(年間60,000円)

子どもが司法面接
系統的全身診察
を受けられる。



種類	単発のご寄附		マンスリーサポーター
会費等	自由な金額		500円/月～
入金種別	銀行振込	クレジットカード*1	クレジットカード*1
申込方法 *2	寄附金額等をお知らせください。 ■専用フォーム(右記QRコード・つながぐHPより)		
入金方法	銀行振込	銀行名:三井住友銀行 横浜支店 口座種別:普通口座 口座番号:7458928 口座名義: NPO法人子ども支援センターつながぐ (エフピーオーホウジンコトモシエンセンターツナグ) ※誠に勝手ながら振込手数料はご負担願います。	
			左記QRコード、または つながぐHPより
	クレジットカード	金額	500円～
		頻度	1回のみ・毎月
		ブランド	

*1【クレジットカード決済について】

Syncableという決済システムを利用しております。同社では、シマンテックSSLサーバー証明書を採用しており、入力情報は安全な形で送信されます。お客様情報も暗号化され厳重に保管されるため、第三者に漏れることはございません。また、クレジットカード番号は、当団体には開示されません。

*2【個人情報について】

ご登録いただきましたご住所・お電話番号・メールアドレス等の個人情報は、活動報告のためのメール送付、資料のご郵送、領収証のご郵送、お電話でのご確認のみに使用します。ご本人様の承諾なしに第三者に提供することはありません。



SNS紹介

メルマガ



Facebook



つながぐでは、子どもにかかわる皆さまに役立つ研修や
いろいろな活動を行っています。つながぐの活動を定期的
にご紹介する、SNSやメルマガをぜひご登録ください。

Instagram



X



スタッフ紹介

代表理事 田上 幸治 (神奈川県立こども医療センター 患者家族支援部長 医師)
同 飛田 桂 (飛田桂法律事務所 弁護士)
理事 新井 康祥 (楓の丘こどもと女性のクリニック院長 児童精神科医)
同 飯塚 富美 (社会福祉法人 心泉学園 理事長)
同 奥山 真紀子 (子どもの心のクリニック・テラ 院長)
同 鴨下 香苗 (Utops法律事務所代表弁護士 神奈川弁護士会)
同 酒井 邦彦 (TMI総合法律事務所 元広島高等検察庁検事長)
同 島田 恭子 (社会福祉法人真生会 常務理事)
同 田村 正博 (京都産業大学教授 元警察大学校長)

理事 仲 真紀子 (理化学研究所理事 北海道大学名誉教授 立命館大学客員教授)
同 藤田 香織 (藤田・戸田法律事務所 弁護士)
同 丸山 洋子 (名古屋市中央児童相談所 児童精神科医)
同 山本 真理子 (帝京科学大学 講師)
同 吉田 尚子 (日本動物病院協会 理事 NPO CANBE 理事 獣医師)
監事 千歳 博信 (千歳・大石法律事務所 神奈川県弁護士会元副会長 弁護士)
同 本郷 順子 (本郷順子税理士事務所 税理士)



子ども支援センターつながぐ
すべての子どもを笑顔から守る

Children's Advocacy
Center Tsunagg

住所

〒231-0005

神奈川県横浜市中区本町5-49 甲陽ビル6階 飛田桂法律事務所内

TEL

045-232-4121

mail

info@tsunagg.org

FAX

045-264-7800

HP

https://tsunagg.org

